人材育成から始まった

「市民が主役の支え合う仕組みづくりとその実践」

くらサポ くじゅう りんどう

くらサポ なおいり ゆのはな

くらサポ おぎ しらみず

くらサポ なんぶ あけぼの

くらサポ ほくぶ 耶城

暮らしのサポートセンターの取り組み（大分県竹田市）

暮らしのサポートセンターの取り組みの経緯について

① 事業構想期 （H22～H23） 厚生労働省 地域雇用創造推進事業を活用

竹田市の現状（高齢化率43%、交通弱者の増加、限界集落の増加）
⇒暮らしを支える互助の仕組みづくり（寄り合い場、有償ボランティアの仕組み、仲間を作ろう！）

② 事業スタート期 （H23～H24） 人材育成セミナーの取り組み（暮らしのサポーターの養成）

まずは「人づくり」！ 地域福祉や介護をテーマにセミナーを開催（気づき→今、自分にできることは？）
⇒暮らしのサポーターのネットワーク化、組織化を図る（第１号くらサポ「りんどう」誕生 H24．９．６）

③ くらサポ実践期 （H24～H25） 拠点づくり、ニーズ調査、サービス開発、コーディネーター

拠点づくり ：サポーターの活動拠点であり、いつでも気軽に立ち寄ることができる憩いの場
ニーズ調 査 ：生活課題実態調査をサポーターを中心に実施（聞き取り調査）
サービス開発 ：専門職ではなく、サポーター（元気な高齢者）による有償の生活支援サービス
コーディネーター：くらサポ会員と連携して、サービスの開発、サポーターと利用者の間をつなぐ

④ 市全域への展開（H26～H27） 竹田ならではの互助の仕組みとして、市全域に広げる

くらサポ「りんどう」の活動を通じて、市においてもくらサポの必要性、支援のあり方を検討
中学校区（7地域）を目安とし、市全域での設置を目指す（現在6、7号目となるくらサポの設立に向け活動中）
※ 人材育成 ＋ 生活課題実態調査 ＋ 組織立ち上げ ＋ 拠点整備 ＋ 住民への周知

暮らしのサポーターの取り組みの手法について

① 人材育成 （暮らしのサポーター養成セミナー）

・チラシ配布による申込みは、2～3件程度しかありません…ひと地域あたり70～80件訪問し、直接お話をして参加者を募ります

・自分のため、家族のため、何となく…まずは、福祉に関心を持つきっかけになってもらえれば！

・1期あたり20回開催、参加者：476人（荻93人、直入65人、久住108人、竹田210人）
回を重ねるにつれ、質問や感想の内容も濃くなっていきます（気づきの大切さ）

② ニーズ調査 （生活課題実態調査：75歳以上対象、個別訪問による聞き取り調査）

・セミナー受講者が中心となり、調査を実施。約40項目あり、1件につき1時間半ほど掛かります

・直接話す事で、調査項目だけでは把握できない、顔色や声色、家の様子などを知ることができます

③ 組織立ち上げ （地域を考える会⇒設立準備会⇒設立総会）

・まずは、仲間づくり！一人では継続できません。
自立して継続できる組織作りを目指します→コミュニティビジネスの展開

④ 拠点整備 （市の遊休施設や空き店舗を活用し、寄り合い場、広場（サロン）を実施）

⑤ 住民への周知 （サービスを希望する利用者（家族）、新たな活動・賛助会員の募集）

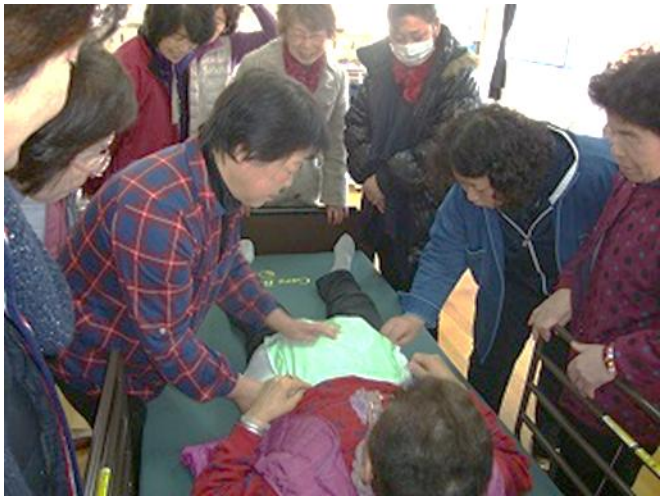
※「高齢者の社会参加」 ＝ 絶えず人材育成の実施（実施主体の確保）

地域住民自らが地域に深く関わり
実情を知ることで意識が変わる

→

その後の活動に
つながっていく！

【 暮らしのサポーター養成セミナー アンケート抜粋 】



・年を取った時、こういうシステムがあると助かると思います。少しの時でも出来るなら、スタッフとして参加してみたい。
・このセミナーの場が、人と人を繋ぐ場になっていますね。お声かけ有難うございました。
・有償サービスするとほんとに両方がいいのではないかと思う。（どちらも気を使わないで）
・有償サービスは地域の共通理解、課題の共有、協力が必要不可欠。自治会内での学習から始める、そういう機会を作りたい。
・認知症の方への接し方について学んだが、これは認知症の方だけではなく、高齢者や家庭、会社など全ての領域に応用すべき。
・基本的に相手に対する思いやりの心が必要である。
・父が認知症で介護していたが、その頃は知識がなく、いつも怒っていたので…今日のような勉強をしていたら心穏やかに話を聞いてあげられたのかなあーと後悔している。
・あまり進まない気持ちで参加し始めましたが、終わってみれば皆出席で、外仕事のない冬期に良い勉強ができ、得をした気分。役に立てる事は少ないと思うが、沢山の資料を頂き、自分の財産となった。
・自分の為にと思って来た。来るからには毎度来ると心に決めていた。何か人の為になる事が出来れば幸い。色んなことを学んだ。ありがとうございました。
・「暮らしのサポーター」の役割、立ち位置、あり方に関する意識が明確に理解できた。
・ボランティアではあるが、その前に「人とのつながり」である事を忘れてはいけないなと感じた。
・マニュアル的にならないよう、人情の延長である気持ちを持ち続ける事が大事だと思う。

セミナー終了後・北部「双城（そうじょう）」の例

くらサポコーディネーターも参加し、
地域の人と一緒に考えます

会議名	開催日	場　所	参加者数
第1回　北部地域を考える会	3月10日	宮城分館	24名
第2回　北部地域を考える会	3月17日	〃	17名
第1回　北部設立準備会	4月　7日	〃	23名
第2回　北部設立準備会	4月14日	〃	24名
第3回　「双城」設立準備会	4月30日	〃	28名
第4回　「双城」設立準備会	5月19日	〃	34名
第1回　「双城」設立準備会役員会	5月26日	〃	9名
第5回　「双城」設立準備会	6月　9日	〃	31名
第2回　「双城」設立準備会役員会	6月16日	〃	9名
第6回　「双城」設立準備会	6月23日	〃	27名
第7回　「双城」設立準備会	7月　7日	〃	26名
竹田北部「双城」設立総会	7月14日	〃	55名

**人材育成をしながら、地域ならではのサービスの創出、
活動の場も同時に創っていく**

各くらサポ設立までの経緯

平成２４年	９月　６日	くらサポ 第１号 久住「りんどう」設立
平成２５年	６月～９月	直入地域生活課題実態調査実施（65歳以上、848／1023人）
	１０月　９日	くらサポ 第２号 直入「ゆのはな」設立
平成２６年	７月～１０月	荻地域生活課題実態調査（75歳以上、585／728人）
	１１月　７日	くらサポ 第３号 荻「しらみず」設立
平成２７年	１月～３月	竹田南部域生活課題実態調査（541／658人）
	３月２５日	くらサポ 第４号 竹田南部「あけぼの」設立
	４月～7月	竹田北部地域生活課題実態調査（470／580人）
	７月１４日	くらサポ 第５号 竹田北部「双城」設立

※１０月より竹田西部地域で生活課題実態調査を開始しており、竹田東部地域では１１月より開始予定で、今年度中に「くらサポ」設立を目指して準備中。
中学校区を目安として市内で７つのくらサポが設立される予定。

＊生活支援サービスとは＊

・住民同士の助け合いを基本とし「住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」ための活動です。

・介護保険サービスや、障害者自立支援サービスなど、公的　な制度では対応できない「暮らしのちょっと困り」を有償　でお手伝いします。

・「自立支援」の考え方を重視し、既存サービスの隙間を埋められるよう、できる人ができる範囲で活動します。（利用料：30分400円、1時間800円）

＊どんな事を頼めるの？＊

・食事の準備、掃除洗濯、ごみ出し、見守り・話し相手、買物代行などの家事のお手伝いや、趣味の農作業支援、草刈り、地区行事の代理、病院への付き添いなどの外出支援。

・ご相談に応じて、お手伝いできる範囲で活動します。

・原則として平日午前９時から午後５時まで対応しますが、時間外はご相談に応じます。

りんどう生活支援サービス実施件数　～できる人が できる時にできる事を～

	H24年度	H25年度	平成２６年度												
支援内容	9月～		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
見守り・服薬確認・話し相手	85	126	4	4	4	9	7	5	5	3	1	1	2	1	257
外出支援	59	217	6		7	1	10	2	6	3	5	1	6	2	325
入院中の支援	18	22													40
掃除、洗濯、整理整頓	19	99		3		2	2	1	2	2	2	2	2	2	138
ゴミ捨て	9	30		5	2	1	1	1		1		1			51
草刈り・草むしり・庭木伐採	11	43	3	5	6	11	5	9		2				1	96
買物代行	6	43	2	1	2	1		1	1					1	58
大工仕事、修理修繕		17	1	2		1		1		1	1	1		1	26
趣味の農作業支援	3	11	3	3	2	3		2	2		1		1	2	33
自治会行事代理（草刈り・立会等）	1	9	3			2									15
その他(ペットの餌やり・手続代行等)	9	15	2					1					1	2	30
	220	632	24	23	23	31	25	23	16	12	10	6	12	12	1069

生活支援を実践したサポーターの意見

＊良かった点・嬉しかった点＊

・ありがとうございます、またお願いしますと感謝の言葉を聞くと、とても嬉しい。
・見守りに行った人が、日増しに元気になっていたので嬉しかった。
・技術もないしプロでもない私がした事でも、大変喜んでくれて嬉しい。
・草刈りは大変だけど、美しくなった景色を見ると達成感がある。

＊困った点・今後の課題＊

・こんなお手伝いでいいのかなと気の毒に思ったり…複雑です。
・自分も歳なので、今後は段々と活動が負担になっていくのではないかなあ。そうなると困るなあ。
・トイレ掃除など、どこまでお手伝いしていいものか迷います。
・作業時間がはっきり分からないので、実際に活動してみたら思った以上に時間がかかる時がある。
・丁寧に作業したいけれど、長引くと料金が上がるし、早く済ませようとすると雑になってしまうので、加減が難しいです。

生活支援を利用した会員の意見

＊良かった点・嬉しかった点＊

・１、２時間の短時間で頼めるからいいわあ。
・一人暮らしやけん、本当に助かってます。
・気の毒に思うくらい良くしてくれるんで。
・知っている人が来てくれて、頼みやすかった。今後の事を考えてアドバイスもしてくれて助かった。
・誰か雇おうと思っても、なかなか人はおらんけんなあ。お願いできるところがあるのは助かるんで。
・自治会の作業に代理で出てくれるのが、大変ありがたいです。
・具合が悪くなった時に助けてもらって、一人暮らしでも、安心して暮らせるなと思いました。できるだけ自分の事は自分でできるように日々がんばります。

＊寄り合い場・広場に来た感想＊

・いつでも自分の都合の良い時に気軽に寄れるので助かります。
・みんなでおしゃべりするのが楽しいわあ。
・リラックスして過ごせて、気が安まります。家にいるみたい。
・土足で上がれるのが嬉しいなあ。
・くらサポに行けば誰かがいるという安心感があって、本当にありがたいです。
・地区のサロンよりも広い範囲の人と交流ができて、いろんな人と友達になれるので、楽しいです。

＊生活支援や寄り合い場の今後の課題＊

・楽しくお話しできるけれど、話した事が他の人にも伝わって噂になっているようです。安心して何でも話せる人がいてほしいです。
・行きたくても遠くて行けれんけんなあ。近くにあるといいなあ。
・一度使うと良さが分かるやろうけど、最初は使い方が分からんけんなあ。
・遠くまで外出支援で行けるといいなあ。

こうなったらいいな！みんなで支えあう地域づくり

医療・介護 専門職によるサービス

・入院、通院治療
・介護保険サービス
（通所、訪問サービス）

・入院中の支援
（買い物、一時帰宅）
・退院後の支援
（服薬確認、見守り）

暮らしのサポートセンター

＊会員同士の助け合い
（中学校区単位）

・継続した人材育成
・生活課題実態調査
・地域の課題、要望の把握
・足りないサービスの創出
→有償生活支援サービスの確立
中学校区単位でのサロン実施
寄り合い場の運営

地域だけでは解決できない課題を一緒に考えて、やりがいのある住民主体の活動を展開

・連携、協働
・お互いの長所、短所を補い合う

行政

・各種事業の推進
・公的サービスの総合調整
・地域活動の支援
・新しい地域支援推進会議
・よっちはなそう会の開催
など

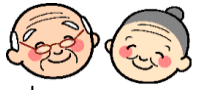
市全体の大きな課題 移動手段の確保

・公共交通機関との連携
・無償運送
・買い物バス、コミュニティバス
・生活支援の一環としての外出支援

「みんなで見守る」
地域の輪

住まい

地域包括支援センター「つるかめ」



・地域ケア会議
・相談対応
・サービスのコーディネート
・地域活動の支援、ネットワーク
・認知症対策

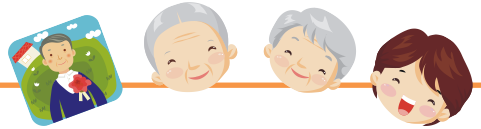
地域の中での助け合い

＊地区社協を核とする日々の活動
（小学校区単位）

・分館、地区館、集会所での活動
・自治会、隣保班
・地区行事の企画、実施
・敬老会、配食
・見守り、声掛け、話し相手

民生委員
福祉委員
自治会長
老人クラブ
食推
愛育保健推進員

「よっちはなそう会」への参加



連携

社会福祉協議会

・地域福祉の推進
・ボランティア育成
・いきがいサロン
おしゃべりサロン
・地区社協の活動支援

各種団体・機関など

シルバー人材センター
ボランティア団体
保育園、幼稚園、学校
駐在所、商店
離れて暮らすご家族

暮らしのサポーターの取り組みの課題について

〇人材育成の継続的な実施の必要性

暮らしのサポーター養成には、人材育成を企画・実施する機能が必要です。（協議体の役割の一つ「資源開発」） これは「生活支援サービスの充実」であり、「高齢者の社会参加」に繋がります。

〇官民協働の取り組みとして

住民だけで新たな組織や仕組みを創り出し、活動を持続していくのは難しいのも現状です。くらサポの活動は、官民協働のまちづくりの一手法です。行政だけでは対応できない課題を、住民と協働しながら解決していこうとする働きかけが必要です。（協議体が話し合いの場に。「ネットワーク構築」）

〇連携体（協議体）の必要性

あらゆる活動の主体が連携を図り、目指す地域像を共有しながら地域づくりに取り組んでいく必要があります。 コーディネーターが協議体を作るのではなく、協議体は、コーディネーターの選出や、役割、どのような地域像を描いていくのかなどを話し合う場であり、助け合い活動を広げていく主体です。

〇くらサポ・コーディネーター

住民主体の活動においては、サポーターと利用者をつなぐコーディネート役が必要です

（ニーズと取り組みのマッチング） ↓

「くらサポ・コーディネーター」 竹田市では必然的に生まれてきました！

〇予算の確保

住民主体の取り組み、助け合いの活動をより効果的、継続的に推進するために、必要な予算の確保が重要です。（新しい地域支援事業の活用）

生活支援体制整備の取り組みとして

フォーラムの開催

（フォーラム開催までの流れ）

〇竹田市生活支援研修会　（5／28）
さわやか九州1ブロック　阿部かおり氏講師

〇大分県主催の研修会に参加　（6／3））
厚生労働省、さわやか福祉財団と協議

〇竹田市長、さわやか福祉財団訪問（6／9）
フォーラムの開催と包括連携協定、合意

〇第1回フォーラム実行委員会　（6／16）
市長、副市長（実行委員長）参加のもと

〇福祉合同会議の開催　（6／19）
福祉関連部局、市社協、包括支援センター

〇第2回フォーラム実行委員会　（6／29）
目的、開催内容、参集者の決定

〇竹田市地区社協連絡協議会　（6／29）
17地区社協会長、事務局長へ説明

〇第3回フォーラム実行委員会　（7／7）
当日資料の構成、役割分担確認

〇新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム　in　竹田市、包括連携協定調印（7／18）
基調講演、グループワーク、270名の参加

新たな地域支援推進体制

（現状と課題）

①地区社協

・地域福祉の担い手として「地区社会福祉協議会」が設置。（17地域）。旧竹田市では、平成6年度に12の地区社協が設立される。

・荻町、久住町、直入町地域の5地区社協は設立から日が浅く、旧竹田市の地区社協との活動に差があった。

②地域への関わり方（行政、市社協等）

・これまで福祉担当部局や介護保険担当部局、市社協、包括支援センター、暮らしのサポートセンターなどそれぞれ縦割りの関わり

・市の担当行政部局と市社協、包括支援センター、くらサポ等が横の連携を図り、地域に出向く体制をつくる必要があった。

↓

新しい地域支援推進会議の発足
副市長（市社協の会長）を代表として
高齢者福祉課、社会福祉課、保険健康課、生涯学習課、総務課、企画情報課
市社協、包括支援センター、くらサポ（経済活性化促進協議会）がメンバー

（地区担当を定め、打ち合わせからそれぞれが参加する）

地域との話し合い

（地域での話し合いの場づくりとして）

〇よっちはなそう会の開催を推進
竹田市地区社協連絡協議会へ説明

〇各地区社協の会長、事務局長と相談

↓

〇各地区社協の役員会で説明

↓

〇各地区社協勉強会の開催

↓

〇地区よっちはなそう会の開催

（大きく3つのパターン）

地区社協の活動や地域の実情により、進め方も大きくパターンが分かれる

〇地域ケアネットワーク形成地域
ネットワークを活用し、具体的な活動や次の展開を模索

〇ブロック別懇談会
ネットワークは形成されてないものの、ブロック別の福祉懇談会等を開催し、地域課題の整理に取り組んでいる地域

〇その他の地域
地域での福祉活動が活発ではなく、人材不足や活動のマンネリ化が進む地域